東大附属英語科主催
講演会（授業）+ワークショップ

『協働 × 探究 ← 創造』

英語の学びのデザインを刷新する

07/11（土）

14:00 - 16:00

夏休みを前に
「学ぶことに対する姿勢」
について、
生徒も先生も一緒になって
話してみませんか？
協働的な学びと探究型学習に
ズームインします！

東京大学教育学部附属中等教育学校
大ホール

主催：東京大学教育学部附属中等教育学校 英語科
後援：東京大学教育学部附属中等教育学校 研究部

←ご予約や詳細はこちら
申し込みフォーム

お問い合わせ: 英語科 戸上和正
togamit@ss.p.u-tokyo.ac.jp

東大附属英語科主催 **講演会（授業）+ワークショップ**

「協働 × 探究 ← 創造」 英語の学びのデザインを刷新する

開催日時：**2026**年**7**月**11**日　土曜日　**14**時〜**16**時
場所：東京大学教育学部附属中等教育学校　大ホール

　外国語としての英語の学習においては、「正しい英語を流暢に使えること」が多くの学習者の最終ゴールと言えます。授業の場面では、限られた時間の中で実感できる学びの形として「正確さ」を重視する指導が、授業者にとっても学習者にとっても進捗が見えやすく分かりやすい学びと言えます。ところがここに、「実際的な利用」をめざした授業が必要とされると、たちまち「正確さ」に影が差します。
　「実際的な利用」＝「伝え合うことを重視」と考えると、「正確さ」が二の次になるということです。この「正確さ」と「流暢さ」のバランスがどうとれるのかというのが今までされてきた議論ですが、本ワークショップでは、この概念を見直したいと考えています。例えば、知識技能面でのトレーニングを利用する場面を具体的に想定することで単調な訓練すらモチベーションを維持できるようになると考えます。また、協働をベースとした探究型の学習においては、足場掛けに「正確さ」を必要とする学びから始めて協働の力を利用しつつ「実際的な利用」をめざした課題に取り組むことで、「正確さ」も身につけた状態でいわゆる「流暢さ」を求めることができるようになると信じています。そこにはちょっとした創造力が必要です。普段の授業に創造力というスパイスをかけてみることで、学習者のモチベーションを掻き立ててあげましょう。
　以上のようなことができるといいな、という思いで今年の授業を実践してきています。授業を作る先生方も英語を学ぶ生徒の皆さんも一緒になって、どんな変化が見られたか、また、もっと良くできないかを話し合える場にしたいと考えています。

提案: 教師の創造力が、学習者の自律性を促し育てる。（英語科の授業実践を通して）
14:00 ~
基調授業: 「創造力をもつこと」スティーブン・フィッシャー氏
14:50 ~
ワークショップ: 学習者に対する想像力から、創造する授業デザインの検討〜東大附属生を交えて〜
16:00 終了
参加対象者
協働学習と探究型授業に興味があり、英語を学ぶことを楽しくすることに努力している学習者、指導者、先生など、広く募集（年齢は**16**歳以上が望ましい）

開催の趣旨
　この度は本企画に関心を寄せて下さり誠にありがとうございます。本イベントに関して、英語科主催という名を借りながら、２０１０年度から東大附属で働かせていただいている私のわがままで開催させていただきます。
　本校は２０００年度に初の国立大学附属の中等教育学校に移行してから四半世紀の間、それまでのオーセンティックな学びを追究する姿勢を守りながら、「学びの共同体」をはじめとする協働的な学びの実践を行ってきた学校です。その中では多くの人たちが東大附属での６年間をそれぞれのスタンスで過ごしてきたわけですが、私もそのうちの一人で、幸運にも教員という立場ですから１５年の歳月をこの東附で過ごさせてもらっています。
　本イベントにおいては、英語自体の指導に関する事柄というよりは、**「学ぶことに対する姿勢」を英語の学習で捉えていくこと**に焦点を当ててみたいと思っています。そういうことから、参加者は教員も学習者もいることが望ましく、どのようなバランスになるのかはフタを開けてみなければわかりませんが、思い切って開催してみようと企画いたしました。
　最初のスティーブン・フィッシャー氏の授業（講演）は、英語を使用言語とします。スティーブンさんには、「**Creativity**」について、彼の経験を通してレクチャーしてもらいます。授業なので、インタラクティブな形を想定しています。
　ワークショップは、日本語を使用言語とします。ワークショップでは、この４月から２年生と４年生の授業を担当しておりますが、そこで私が行なっていること、心がけていることを説明し、その授業に参加している生徒何人か（来てくれると良いですが…）に話を聞いてみるところをお見せして、その後、「教師の創造力が、学習者の自律性を促し育てる。」という私の提案に関して意見交換をする。このような内容を想定しています。
　今回でそれきりの企画になってしまうかもしれませんが、この時間を共に過ごしていただき、何かしら共鳴するところが見出せてもらえたら、それだけでとても価値のあることだと考えます。時代や世代を超えても続けていくことができる「学びの概念形成」ができることが最大の希望です。

東京大学教育学部附属中等教育学校
英語科教諭　戸上和正
２０２６年６月６日